

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム やすらぎの里	評価実施年月日	平成19年9月5日
評価実施構成員氏名	(東)渡部・福岡・大津・佐野・清野・杉山・伊藤・大土・高橋・杉本・鈴木		
記録者氏名	渡部 眞里子	記録年月日	平成19年10月18日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	入居者さんを個人として尊重し、プライバシーを守り、安心と尊厳のある生活を実現するように努めている。		地域の中でゆったり穏やかな生活が出来るように援助している。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	基本理念は日々のミーティングの中で確認しあっている。基本理念に沿った介護に心掛けている。		理念を基本としているが、理行に対しての認識が不足しているので、理解し実行していくよう努力をしていく。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	基本理念は見やすい場所に掲示して、家族等が来訪の際に理解して頂くよう努力しています。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域に密着したグループホームを心がけ常に地域住人と自覚し交流を図っています。		地域に理解して頂けるように行事に参加し努力する。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入しており、町内の清掃など行事に参加しています。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	民生委員の方に運営推進委員会に入って頂いています。何か地域の高齢者活動に協力できないか模索している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の結果に基づき管理者・職員で話し合い改善に取り組んでいる。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	4月・7月に実施しており、2～3ヶ月に1回程度開催予定。		多くの人に運営推進委員会に参加してもらうよう努力しPRしたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市との連携は介護保険証、生保等の申請等で訪問した際に担当者に疑問点などを聞いている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	人権擁護後見人制度の講習会等には参加しているが、職員全体には伝わりきれていない。		今後に向けて、職員全体が周知できるようにしていく。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全体会議・ミーティング等で機会あるごとに話し合いをしている。終始徹底している。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時に、本人・家族に十分説明し納得のいくまで説明している。要望などを聞きながら対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が普段と違う態度・様子・元気がなかったら、接する時間を多く持ち、話を聞き何を求めているのか、理解し職員全体で解決するように話し合っている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	定期的にホームの通信と共に、個々の暮らしぶりを郵送しています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の家族の集まり、家族会を設けて行っています。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1～2ヶ月に一回のペースで職員(全体)会議を行い話し合っています。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要な時間帯には、職員を確保しているが、人数的にはもう少しの方が良い。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	大幅な異動はなく、利用者の方に負担をかけないように心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>色々な勉強会・研修会を全職員が参加できるように配慮している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>勉強会・研修会等積極的に参加している。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>その都度話し合いを行っている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>普段の業務に余裕があれば、各自向上心をもって、働けると思うが、職員の人数確保が不十分である。</p>	<p>職員の勤務・状況に合わせて行っている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用者さんと少しでもコミュニケーションをとるようにし、不安・困っている事を取り除いてあげるよう心がけている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族の方が来られた時に、普段の様子等をお話し、又、職員に何を求めているのかを聞くように心がけている。</p>	<p>これからも、家族から話を聞き、不安な点を受け止めるように努力していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の内容が何かを理解し、必要な援助について、一緒に考え話し合うようにしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	サービスを始める前に、本人と話し合いをし、徐々にになれるように援助していく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	お茶のみ・食事・散歩・テレビ観賞時、その時々思い出話、経験談を聞き話に花が咲いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族会による焼肉パーティー等を行い、家族・利用者・職員と和気藹々とゲームをしたりして楽しみながら、お互いの関係を築いている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の方のお話を聞いたり、利用者さんの普段の生活をお話し、共通する話題を見つけている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	気軽にホームに来てもらったり、送り迎えをしている。又、利用者さんが行きたい所に希望があれば付き添いと支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	みんなが一緒に食事やお茶のみ・ゲームが出来るように、支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了前から、利用者・家族が不安にならないように、連絡を取り合いながら、再度入居まで、もしくは別の入居場所を紹介するなど関係を断ち切らないように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人の長年の習慣や思考を優先するように、努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人・家族、身内の方から今までの生活歴等、事細かにわかるところまでを聞いて記録している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	1日の決まった生活の流れの中でも、その人にあった過ごし方を見極めていけるように努めている。		利用者さんの状態にあった支援をしている。職員同士も報告・連絡・相談を密に行い、状況把握に心がけている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的に又著しい変化がある時はその都度スタッフ・ケアマネで話し合い、必要ならば家族も呼び話し合いをして計画作成している。		職員がわからない事、こまったこと等あれば、その利用者さんのカンファレンス等を行い、利用者さんが自分らしい生活を送っていただけるよう取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的にカンファレンスを行っている。毎月個別のサマリを作成し、変化が著しいときは、速やかに話し合うようにしている。		変化が生じた際は直ぐ見直し、カンファレンスを行い、家族と話し合い相談しながら計画を行っている。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	1日の生活記録を細かく記入している。又、見直しが出来、共有しやすい工夫をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	できる限りの事は支援している。		本人・家族の外出・外泊の支援。家族が自由に泊まれるように支援を行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域との協力は行っている。		地域の行事に参加したり、学校、保育園などの協力が交流は図れている。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他事業所・ケアマネとの連携を図っている。		各ホームからの相談や交流を図るようにしている。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	包括との連携を図るようにしている。		必要時連絡を取り合うようにしている。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常に健康状態を管理し対応している。かかりつけ医と連絡を取りながら支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関を設け、診断・治療等の助言をもらう。24時間体制で医師と連絡が取れるようになっている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常に連絡を取れるようになっている。24時間いつでも相談し助言してもらっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関と連絡を取り合うようにしています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族・かかりつけ医等と話し合い、職員全員で方針を共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	常に変化に気をつけ、その都度、医師・家族・職員とで話し合うように心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人・家族・ホームとの話し合いを十分に行っていると思う。他へ移り住む際、本人・家族と情報交換を行い利用者さんが不安にならないように対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	記録、個人情報は、ケアマネに聞いたり、ファイルに閉じてある。本人の自尊心を傷つけないよう心がけている。		個人のプライバシーには細心の注意をはらって、安心して生活して頂けるように配慮している。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	我がホームは高齢者が多く、認知度も高い為、わかるように説明しているが、理解できないことが多い。理解出来る方には、自分で決めてもらうようにしたり、相談にのったりしている。		安全を守る為、しぐさ、言動を観察し、ゆっくりした口調で話すようにしている。
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	なるべく利用者さんの希望を優先している。		利用者さんの希望を第一に考え、利用者さんのペースに合わせて手助けしている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ホームへ2ヶ月に1~2回は理容に来ていただいている。本人の希望時、美容室まで送迎を行っている。服がほしいという時は、一緒に買い物に行くようにしている。		
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	その献立によって、お手伝いしてもらったり、料理の仕方・味付けなど見てもらったりしている。又、食事は利用者・職員全員で同じ食事を食べている。食後の後片付けも行ってくれています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入所時、本人又は家族から好みなど聞き取り、可能な限り、対応している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導などを行っている。日中・夜間とオムツの種類を使い分け、最低限の使用頻度でとどめ、排泄動作を行っていただくようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	いつでも入浴できるように配慮している。入浴するかどうかを、本人の希望を聞き、体調を考えて入浴していただいている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ホーム内、各居室内の温度調節等を行い、過ごしやすくしている。体調・様子を伺いながら、休息していただくように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	その人がその人らしい役割や出来ることを判断して、お手伝いをしていただいている。時折カラオケやゲーム・趣味活動を行い楽しませている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人・家族・ホームとで話し合い、可能な限り、本人に金銭管理をしていただいている。自己管理できない人は、ホーム側で管理し、随時家族へ報告している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	老人会などへ参加するときは送迎を行う。散歩・買い物などは、職員が付き添い安全に外出できるよう支援している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	小・中学校の吹奏楽コンサート等の行事に参加したり、花・海などを見に出かけたりしている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	施設の電話を利用いただいています。字をかけない方には、本人の口述を職員が代筆して手紙を送ったりしている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問していただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修会等に参加し、可能な限り身体拘束をしないケアの実践をしている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけないケアの実践をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	一人一人の症状や訴えを把握し、速やかに対応している。1日(夜間も含め)見守り、居室まで付き添い、安全を心がけている。		日中、居室で過ごされている入居者さんへも様子を見に行くようにしている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	管理できる人には、自分で管理してもらっている。出来ない人はホームで管理を行い必要時使用している。包丁・洗剤等は、安全なところへ保管するようにしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	火災訓練と点検は行い、火の始末には十分な注意を払っている。転倒の際には、声かけし部位を確認、必要があれば医療機関へ受診するようにしている。薬は必ず複数で確認して渡すようにしている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	施設長・管理者に報告し、速やかに対応している。		対応への定期訓練はあまり行っていないので、全職員と話し合う。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	通報・避難訓練を行い、災害時の対応に職員全体で取り組んでいる。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	その時々状態により、速やかに家族の方に連絡したり、家族の方が来訪された時にお話をして対策を話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日一人一人バイタル測定を行っている。様子観察し、体調の変化を確認し、普段と違う場合は、職員同士で情報を共有し対応している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の目的を理解し、用法・用量を正しく把握し対応している。変化がある場合は、医師へ連絡し指示を仰ぐようにしている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>適度な運動・水分・栄養に注意し、自然排便を促すようにしている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、声かけ・見守りにて、うがい・歯磨きを促している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養士により献立を作成してもらい、食事・水分量をチェックし、職員が情報を共有している。ひとり一人の状態に合わせて声かけや工夫を行っている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>医師との連絡を十分に行い予防に取り組んでいる。手洗い・うがいを行い、必要時マスク着用を促している。毎年、健康診断、予防接種(インフルエンザ等)を行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所・調理用具等、常に清掃、除菌に心がけている。食材などは、栄養士の献立を基に安全で新鮮な物を購入している。まな板・布巾は毎日消毒を行い、安心して食事が出来るように気配りをしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関先には、花を植えるなどし入居者・家族・近隣の人等出入りしやすい様になっている。裏庭には、テーブル・イスを置き、皆でお茶を飲めるようになっている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>畳・ソファ・テーブル・装飾品等で、家庭的な雰囲気有している。</p>		<p>常に利用者さんが安心して、落ち着ける空間を作っていきたい。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>入居者さんが自由に過ごせるスペースを確保している。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には、入居者さんが長年使い慣れた物や、好みの物など持ち込まれゆったり過ごせるようにしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>常に入居者さんの状況に応じ、温度調節・換気を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	廊下・浴槽・トイレに手すりを設置し、安全に生活できる工夫をしている。	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	入居者さんが混乱や錯覚を招かないよう、居室に家族の写真を飾るなど工夫し対応している。	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	庭に、野菜・花など植え、季節が感じられるようにしている。又、中庭にテーブル・イスを置き、お茶を飲んだり、食事等を楽しまれている。	



. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている            少しずつ増えている            あまり増えていない            全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が            職員の2/3くらいが            職員の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が            利用者の2/3くらいが            利用者の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が            家族等の2/3くらいが            家族等の1/3くらいが            ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 ・明るく、笑顔で生活しています。その他、保育園のお遊戯会や小・中学生の楽器演奏会などで地域との交流を図っております。

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム やすらぎの里	評価実施年月日	平成19年9月5日
評価実施構成員氏名	(南)木戸・阿保・宗本・久木・好田・渡部・佐伯・増田・松浦		
記録者氏名	木戸 誠	記録年月日	平成19年10月18日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	入居者さん一人一人を尊重し、自分にあった暮らしができるよう、実現に向け事業所独自の理念を作り上げ、支援している。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝理念を唱和している。理念の意味を理解し、実現に向けて取り組んでいる。		グループホームの理行に対しての理解が不十分などがあると思われるので、理念と一緒に毎朝唱和し、カードを作成し常時携帯できるようにする。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ホーム内、見やすい所に、掲示してある。契約時、説明を行い、家族会・運営推進会議などでも一緒に話し合っている。		地域としては、十分とはいえないので、運営推進会議等を通して、もっと理解していただけるよう取り組んでいく。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	気軽に挨拶してくれたり、畑でできた野菜などを持ってきてくださる。庭に咲いた花などを見せていただいている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	老人会・町内会に加入しており、行事などがあるときは、積極的に参加するように心がけている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	現在十分な取り組みをしているとはいえない。		運営推進会議を通して、今後地域活動を活発化して取り組みたい。 (回覧・ポスター等を使用)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	外部評価での指摘に基づき、全体で話し合い改善するように取り組んでいる。	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	平成19年4月、7月の2回実施している。2～3ヶ月に1回開催予定。	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	介護保険証・生活保護等の申請で訪問した際に、連携を図るようにしている。その他、疑問等が生じた場合には、その都度聞くようにしている。	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	権利擁護の勉強会や講習会に参加しているが、全職員が理解しているとはいえない。必要時には制度を活用していけるようにしている。	全職員が周知できるようにする。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	勉強会・研修会に参加し、学んだことを話し合っている。具体的に虐待とはどういう事が勉強し、防止に努めている。	もっと事例を活用し、勉強する機会を作ってゆく。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時に不安な点や、疑問な点がないか聞きながら、十分説明している。後日疑問点などが生じた場合には、その都度対応するようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付窓口・意見箱を設置し、意見・不満・苦情がないか聞くようにしている。苦情等があった場合は、全体で話し合い、速やかに対応できるように心がけている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態・様子・金銭出納は、「お知らせ」と一緒に月に1度郵送している。緊急時等は、その都度電話連絡を行っている。その他、家族が来訪された際に説明を行うようにし、安心できる環境づくりに努めている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付窓口・意見箱を設置し、その他家族等が、来訪されたときに意見・不満・苦情がないか聞くようにしている。苦情等があった場合は、全体で話し合い、速やかに対応できるように心がけている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議で話し合いを行っている。職員の意見を尊重できるように配慮している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事や通院等その都度、無理なく対応できるように努めている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	移動は必要最小限にとどめて、利用者の方への負担をできるだけ少なくしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>他のグループホームに行き研修している。職員の経験に応じて研修を受けていけるように配慮している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホームケア研究会・その他勉強会・研修会に参加し、他事業所と交流を図り、サービスの質の向上に努めている。</p>	<p>もっと勉強会、講習会に積極的に出席して他の職員と交流を持つようにする。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>その都度、個々と話し合いの場を作る。他の職員と相談に乗ってもらう。年に数回職員同士が親睦を図れるように配慮している。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>各自具体的な目標を持ち、それに向け努力をしている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用者さんと一日に数分でも接する時間を持つように心がけている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>気軽に相談できる雰囲気を作り、利用者さんの状況を出来るだけ細かく報告する。</p>	<p>家族との話し合いを出来るだけ早く持つようにする。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受け、何を求めているのかを話し合い、支援していくよう努力している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	周りの雰囲気明るくし、他の利用者さんとうまく生活できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共に喜怒哀楽を分かち合うように、共同で生活している。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族に状況を報告し、可能な限り利用者さんと一緒の時間を作り支援していただいています。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	来所しやすく、話しやすい雰囲気作りを心がけ、職員全体でよりよい関係を作れるように努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人の面会、外出・外泊には積極的に支援している。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士が協力し合い、孤立することなく生活できるように支援しています。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後も継続的な関わりが必要な方には、連絡を取り合い支援するようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族の意志を尊重し、本人主体の生活について、検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族等より、今までの生活習慣を聞き、その延長として今までの生活習慣をなるべく崩さないで生活できるように支援している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の状態・現状や可能性を申し送りで引継ぎ、その都度話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族等より、話を聞き、介護員と共に作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	現状に沿わない場合は、随時新たな計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	随時記録し、職員全員が情報を共有できるようにしている。よりよいケアに努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者の要望に応えるよう各支援に随時対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進委員会を軸に民生委員・町内会長等と協力して支援している。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のケアマネージャー・他の事業所と連携を図り、必要時には本人・家族の意向に沿って支援を行うようにしている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括センターと連絡を取り合い、必要時には協働していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	主治医・看護職員と相談しながら、適切な支援を行えるようにしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医に相談し、必要時には専門医への受診を支援している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員により、日常の健康管理等を支援している。体調不良時等、電話連絡により相談し助言を受けている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	本人への面会や、入院先の病院関係者・家族等・主治医との連絡を密にし、病状や今後の対応について話し合い、早期退院に向けて努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人・家族・主治医と話し合いを行い、方針を共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人・家族・主治医と話し合い、了承を得た上で、重度化した場合や終末期に向けて、対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	必要な情報を得て、住み替えによるダメージを防ぐように努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者一人一人を尊重し、自尊心を傷つけるような対応はしないように、職員が一人一人心がけている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個々に合わせた説明を行い、本人が自己決定できるように支援している。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者を最優先し、本人の希望に沿うように対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	1～2ヶ月に1度理容の方に来ていただいている。希望があれば美容院へ行くように支援している。		
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の時、置き場所や利用者に合うもの合わないものを考慮し、配慮している。食事も職員と一緒に摂り、片付けも一緒に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	可能な限り、本人の希望に沿うように支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の能力に応じ、トイレへの移動・誘導・促しを行い、オムツ・パットに対しても必要最低限の使用で済むように配慮している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日を問わず、いつでも本人の希望があれば入浴できるようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の状態や様子を観察、本人の意志を尊重し、いつでも休息できるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	コミュニケーションを図りながら、外出(風景・景色)したり、野菜の皮むき・食器洗いなどを手伝って頂きながら気晴らしをしていただいている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人・家族と相談し、自己管理が出来る方にはしていただき、出来ない方には、事務所で管理を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外へ散歩に出かけ、庭先の花を見たり、買い物等行きたいところの希望があれば、その都度可能な限り、介護員や家族に付き添ってもらい、外出するようにしている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族と共に外出・外泊の支援をしている。毎月行事を計画し、季節に合わせて、いろんな場所へ外出している。その他は、地域での行事等積極的に参加し外出する機会を設けている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけられる人には自分で行ってもらっている。電話の受け・掛が出来ない場合は、介護員が支援している。手紙に対しても本人が書ける場合には自由に書いてもらい、書けない人には、代筆を職員が行っている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族・友人・知人の方が、いつでも自由に訪問出来るようにしている。利用者と訪問者がゆっくりと過ごせるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修会等に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。本人が嫌だと感じる行為・言動をしないように職員全体で配慮している。ベットのサイドレールに対しても、身体拘束になりかねないので十分注意して取り組んでいきたい。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関・居室に鍵はかけず、自由に入出入りできるようにしている。利用者さんが出て行った場合には見守りを行い安全を確保している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中及び夜間、利用者さんの行動や様子に気を配り、安全に生活していただけるように配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人一人の能力・状態を考慮し、注意の必要な物品については、状況に応じて対応している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	精神・身体の状態を把握し、一人一人の状態に応じた事故防止に取り組んでいる。火の取り扱いには、細心の注意を払っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し、急変・事故が生じたとき対応できるようにしている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	緊急の連絡網を作成し、消防訓練も定期的に行っている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	月1回利用者さんの状況・行事等を家族に送付している。今後起こりうるリスクについて、家族と話し合い、対応策を考えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日バイタル測定を行い、変化があれば速やかに、情報を共有し、必要時には医師へ連絡を取って対応している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>利用者さんの薬に対して、目的・副作用・用法・用量を理解するように、職員一人一人努めている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>排便の状況を確認し、便秘予防としては、食事・水分量を毎日チェック、不足していると思われる場合は、摂取していただくように促したりしている。一人一人の状態に合わせて、適度に運動していただくようにしている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、歯磨き、うがいの声掛けを行い、支援している。義歯も洗浄している。必要時、歯科受診している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養士が作成した献立にあわせて、食事を提供している。毎日の食事・水分量をチェック確認し、必要量が摂取されるように支援している。摂取困難な場合、時間をずらすなど工夫している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルを作成し、対応している。手洗い・うがい等は声かけ、促しを行っている。必要時にはマスクを着用していただく。毎年、インフルエンザ等の予防接種を行っている。</p>	



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理後、使用した用具を直ぐに洗浄、除菌するよう努めている。食品の鮮度を保つ為、過度の買い物をしていないようにしている。		今後も衛生・食品の管理を徹底して行っていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関や建物周辺に花や農作物を植える等し、近隣家庭に近い環境を作っている。		今後も植物を植える等、視覚的なことに配慮し、近隣との関係作りを積極的に行っていきたい。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	時間や季節により、のれんやカーテン、居室のドアを調節し、光や音に不快のないよう配慮している。又、四季の花や飾りを使用し落ち着けるよう工夫している。		今後も、利用者さんが落ち着ける空間を考慮していきたい。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	TVや新聞等を置き、ソファやテーブルの配置を考えたり、自由に椅子を移動したりと、空間づくりを考えている。		現状に満足せず、常に利用者さんの意見を聞きながら空間づくりを工夫していきたい。
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	昔から使用している家具を自由に持ち込んでもらったりと危険がない限り、個々の自由な間取りにしている。		個々の意見を尊重し、快適に過ごしていただけるよう援助していきたい。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	利用者さんの状態を把握し、本人達と相談しながら、換気や温度調節をこまめに行っている。		体感温度はそれぞれ違う為、今後も換気・温度調節には利用者本人と話し合いながら実行していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホーム内(廊下・トイレ・浴槽)に手すりを設置したり、杖・歩行器等、歩行に関する補助用具は自由に安全に使用できるよう廊下やダイルームの家具の配置に気をつけている。</p>	<p>今後も自立した生活が送れるよう見守りはもちろん、歩行する際に危険がないか常時周囲を観察・確認し、環境整備を行っていききたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>ゆっくり焦らないで、わかりやすいように話をしたり説明をするよう心がけている。場所に対しては、目印をつける等工夫をしている。</p>	<p>利用者さん一人一人の行動を把握し、混乱・失敗を未然に防げるよう対処支援を引き続き行っていききたい。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>外にも椅子やテーブルを設置し、くつろげる空間を作っている。又、畑を作り、一緒に作業したり楽しめるようにもしている。</p>	<p>今後も事業所内だけでなく、外の空間でももっと楽しめるよう今の状況以外にも何かないか考えていききたい。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2 / 3くらい</p> <p>利用者の1 / 3くらい</p> <p>ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある</p> <p>数日に1回程度ある</p> <p>たまにある</p> <p>ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2 / 3くらい</p> <p>利用者の1 / 3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2 / 3くらい</p> <p>利用者の1 / 3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2 / 3くらい</p> <p>利用者の1 / 3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2 / 3くらい</p> <p>利用者の1 / 3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2 / 3くらい</p> <p>利用者の1 / 3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族</p> <p>家族の2 / 3くらい</p> <p>家族の1 / 3くらい</p> <p>ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように</p> <p>数日に1回程度</p> <p>たまに</p> <p>ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている  <del>少しずつ増えている</del>            あまり増えていない            全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が  <del>職員の2/3くらいが</del>            職員の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が  <del>利用者の2/3くらいが</del>            利用者の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が  <del>家族等の2/3くらいが</del>            家族等の1/3くらいが            ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 ・本人の意志を尊重し、楽しく、健康で毎日を暮らせるように支援している。その他、保育園のお遊戯会や小・中学生の楽器演奏会などで地域との交流を図っております。